

都市再生整備計画(第6回変更)

おみむらひじりこうげんいったいちく
麻績村聖高原一帯地区

ながのけん おみむら
長野県 麻績村

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ながのけん 長野県	市町村名	あみむら 麻績村	地区名	あみむらひじりこうげんいったいちく 麻績村聖高原一帯地区	面積	199ha
計画期間	平成17年度～平成21年度			交付期間	平成17年度～平成21年度		

目 標

「ひとと自然、ひとと街道(みち)、こころのふれあう空間整備」
 住民参加による地域の活性化 住民のまちづくりに対する参画意識の向上と活動の実践【段階的な活動計画策定とその実践】
 癒しの森づくり 聖高原の聖湖、すずらん湖周辺をひとと人のつながりにより景観を整備【村民参画の実践ステージ 1】
 歴史の街道(みち)、花の街道(みち)づくり 潜在的な地域資源を活用して歴史の街道(みち)、花の街道(みち)を住民とともに再生・整備し、こころのふれあう新たな交流拠点を創出する【住民参画の実践ステージ 2】

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・昭和31年の合併によって麻績村が成立した当時は人口が5000人を超えていたが、減少傾向をたどり、現在は3455人となっている。
- ・高齢人口の比率は34.9%であり、基幹産業である農業就業人口も高齢者の占める割合は高い。
- ・基幹産業である農業は、「食の安全」をセールスポイントとした生産品を目指し、有機質肥料による土壌改良に対する取り組みに着手している。
- ・村内に長野道麻績インターチェンジとJR聖高原駅を擁し、アクセシビリティが高い。歴史・自然の環境が豊かであり、親しみやすい日本一小さなスキー場やジェット機を展示する博物館を始めとするレクリエーション、文化施設が集積する聖高原エリア、麻績宿の風情が残る駅周辺エリア、北アルプスを遠望し美しい庭園もてなしのこころを大切にする公営宿泊施設「シェンガルテンおみ」があるふるさと体験エリア等の3つの拠点を整備し、観光にも力を注いだまちづくりを行ってきた。
- ・近年では住民の参加を促す村づくり会議を発足した。

課 題

- ・高齢化、人口流出への対応
- ・基幹産業である農業生産物へのてこ入れ【品質向上とブランド化】
- ・観光レクリエーション拠点の集客の減少傾向に対する対応
- ・村民活動と村づくり整備との一体化

将来ビジョン(中長期)

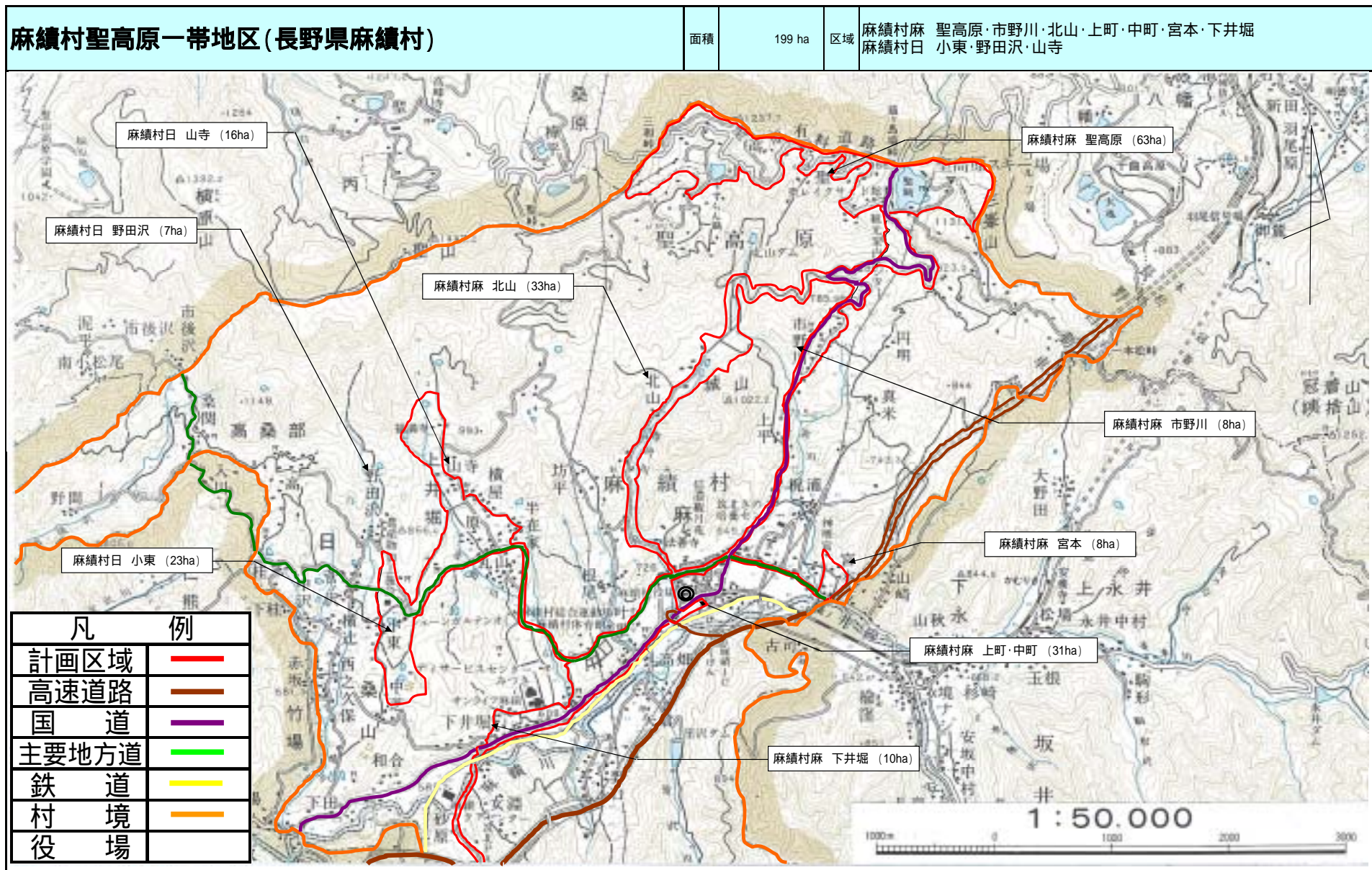
- ・「第五次麻績村振興計画」では歴史的風土の価値やこれまで整備してきた文化施設等の価値を村民の貴重な財産とし、これを有効に活用して自立した村づくりを目指している。
- ・村民が心身の健康を増進させ、生活そのものを楽しめる村にしていく。(高齢者の健康生活の持続とまちづくりへの貢献)
- ・住民参加の村づくりの過程で村民の共通認識を高め、活動し、次世代を担う青少年につないで、村の持続的な発展を目指す。
- ・豊かな自然環境と歴史的な財産を守り育て、安全な農産物を生産し、真心と情熱を大切にする村づくりを行い、これをもてなしの要素として観光客の集客力を高める。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度	目標年度	基準年度	目標年度
活動計画策定ワークショップ	人/回	村民の意見数・参加者数	認識と積極性の確認	43人	15年度	80人	平成17年度
植花・植樹活動への参加	人/年	村民等の参加者数	まちづくりへの意欲・交流人口の増	70人平均	15年度	150人	19年度・20年度
聖高原・シェンガルテンの利用者	人/年	観光客の入り込み客	花の修景による集客の向上	133000人	15年度	165000人	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針

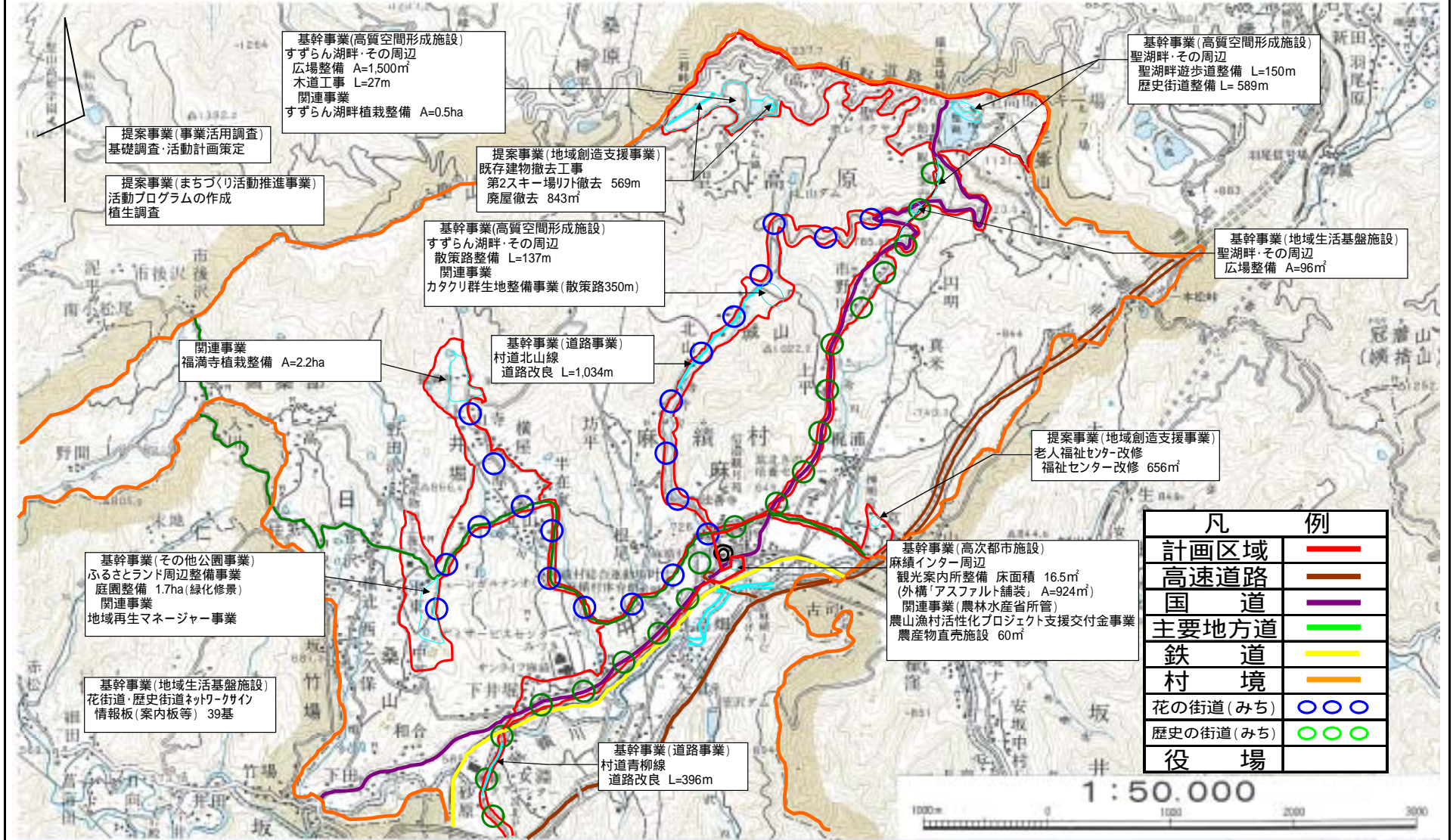
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針-1 聖高原エリアの花による修景計画の実施 聖高原エリアの一部であるすずらん湖周辺は、スキー場閉鎖とともに衰退した。このため、スキー場跡地等の有効利用を図る景観整備や木道の整備を行う。また、あわせて景観を損ねている既存廃屋建物を撤去し緑化施設を整備する。</p>	<p>高質空間形成施設 ・ 聖高原すずらん湖周辺の緑化施設整備（植栽、東屋、広場、木道）</p> <p>地域創造支援事業 ・ 既存廃屋建物の撤去事業</p>
<p>整備方針-2 聖高原エリアの癒しの森整備 村民の生活の源泉である聖湖、すずらん湖の水質の維持と、あわせて変化に富む湖畔景観の形成を目指し、湖畔周辺の植栽整備などの取り組みを通じて村民と都市住民との交流連携を図り、ひとと自然がふれあう癒しの森として整備する。また、湖畔周辺には希少植物の群生地があるため、湖畔周辺の植生調査を実施し、希少植物の保全管理に努めるとともに、自然を活かした里山の創出を図る。</p>	<p>高質空間形成施設 ・ 聖湖畔遊歩道整備</p> <p>地域創造支援事業 ・ 植栽整備のためのスキーリフトの撤去</p> <p>まちづくり活動推進事業 ・ 植生調査</p>
<p>整備方針-3 「麻績インターチェンジ周辺、聖高原一帯、シェーンガルテンおみ」の各エリアの街道(みち)の整備 ・ 村の玄関口である長野自動車道麻績インター付近に「くつろぎスポット」として観光案内所・農産物直売施設（農水省所管：農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業による。）を一体的に整備する。 ・ 花街道の起点として、シェーンガルテンおみの前庭エリアを修景効果の高いエリアとして改修を行い、次の花街道の中継地である福満寺周辺の景観を整備する。 ・ 聖高原エリアに至る北山地区は、四季折々の花(カタクリ、ミズバショウ、山吹、桜、ラベンダー、りんご、そばなど)が咲き花街道のメインストリートであり、木曾義仲ゆかりの史跡も多く、道路整備は地域再生に必要な不可欠である。 ・ 聖高原エリアの善光寺街道猿ヶ馬場峠に残る伝説「お仙の茶屋」跡をメインに歴史街道を整備する。あわせて歴史街道沿いに、休憩・駐車スペースとしての広場（ポケットパーク）を整備する。</p>	<p>高質空間形成施設 ・ 聖高原エリアの歴史街道整備(善光寺街道、湧水場整備等) ・ 散策路整備</p> <p>道路事業 ・ 北山地区の花街道としての道路改良 ・ 青柳線の歴史街道としての道路改良</p> <p>その他公園事業 ・ 花街道起点のシェーンガルテンおみの庭園修景整備（緑化修景）</p> <p>高次都市施設 ・ 麻績村の玄関口である長野道麻績インター出口に観光案内所</p> <p>地域生活基盤施設 ・ 花の街道(みち)、歴史の街道(みち)ネットワークの案内板、指導標整備 ・ 広場整備（ポケットパーク）</p>
<p>整備方針-4 これまで行政主体で行ってきた村づくりから、村民が積極的に村づくりに参加し、都市住民との交流を通じて「もてなしの心」を醸成させるために整備方針の1～3を活動のステージとしても位置づける。そのためには各整備が効果的に活かされるよう、同一の方向性を持ち、活動できる確実な実行計画をたてて取り組みを行う。また、健康で豊かな村づくりを目指すため心身のリフレッシュができる施設の充実と、健康に欠かせない食の安全をテーマとした有機農業者の育成を住民と協働し行う。</p>	<p>事業活用調査 ・ 基礎調査、活動計画策定</p> <p>まちづくり活動推進事業 ・ 活動プログラムの作成 ・ 人材育成の推進(文化財ボランティアガイド育成、自然観察インストラクターの育成等)</p> <p>地域創造支援事業 ・ 温泉を活用した老人福祉センターの改修事業</p>
<p>その他</p> <p>この事業は直接的なハードの整備効果にとどまらず、村民の参加による意識改革事業と位置付け、今後の展開につなぐ足掛かりとする。</p> <p>1. 住民参加計画を整備し、参加を促す活動によって村の景観を向上させることで村民の認識を高め、以後は街道沿いの農業景観に花をプラスした景観創出への協力の要請と具体化を図り、村の基幹風景を創ることによって交流人口の拡大を図る。(景観ルート創出：シェーンガルテンおみ 花街道・歴史街道 聖高原癒しの森)</p> <p>2. 本事業の取り組みを通じて、住民の地域づくりの活動をステップアップし、全村的な活動に広げていくことにより地域コミュニティの再生、地域の活性化を図る。</p> <p>3. もてなし活動プログラムへの展開。本事業によって整備される街道(みち)のウォーキングによって花めぐり、歴史めぐりをガイドするもてなしプログラム、きのこや野菜採りをガイドするもてなしプログラム、聖高原めぐり(動植物観察、野鳥観察、森林浴など)をガイドするもてなしプログラムの創設と人材育成(文化財ボランティアガイド、自然観察インストラクターの養成など)を行う。</p>	



計画区域が分かるような図面を添付すること。

麻績村聖高原一帯地区(長野県麻績村) 整備方針概要図

目標	「ひとと自然、ひとと街道(みち)、こころのふれあう空間整備」 住民参加による地域の活性化 住民のまちづくりに対する参画意識の向上と活動の実践 癒しの森づくり 聖湖、すずらん湖周辺をひとと人のつながりにより広葉樹の森として景観を整備 歴史の街道(みち)、花の街道(みち)づくり 地域資源を活用し住民とともに新たな交流拠点を創出	代表的な指標	活動計画策定ワークショップ (人/回) 43人 (15年度) 80人(17年度)
	植花・植樹活動への参加 (人/回) 70人 (15年度) 150人(19、20年度)		
	集客力の向上 (人/年) 133,000人 (15年度) 165,000人(21年度)		



凡 例	
計画区域	— (Red line)
高速道路	— (Brown line)
国 道	— (Purple line)
主要地方道	— (Green line)
鉄 道	— (Yellow line)
村 境	— (Orange line)
花の街道(みち)	○ ○ ○ (Blue circles)
歴史の街道(みち)	○ ○ ○ (Green circles)
役 場	□ (Black square)

1 : 50,000

